

## 審 議 ( 会 議 ) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会		
開催日時	令和5年11月13日（月曜日）18時00分～20時00分		
開催場所	Web開催		
（役職名） 出席者	（会長）小林修三 （副会長）小林一雄 阿部正隆（以下、50音順） 石黒知美 雁瀬美佐 坂口順 佐々木つぐ巳 神保和美 鈴木姿子 田村功一 藤井理恵薫 米多 寛之		
次回開催予定日	令和6年10月～11月		
問い合わせ先	所属名、担当者名 がん・疾病対策課 神戸 電話番号 045-210-1111 内線4795 ファックス番号 045-210-8860		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事録</li> <li>・ 議事概要</li> </ul>	議事概要とした理由	未成熟な情報であって、公開すると混乱を生じさせるおそれがある情報（神奈川県情報公開条例第5条（3）の内容）のため
審議（会議）経過	開会  あいさつ  会長、副会長の選任 神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会設置要綱第4条第2項の規定により、協議会構成員の互選により小林修三委員を会長に選任。小林修三会長から小林一雄委員を副会長に指名。  会議の傍聴 事務局 本協議会は、「附属機関等の設置及び会議公開等運営に関する要綱」		

に基づき公開とし、発言者の氏名、発言内容、要約を議事録として公開することになっている。開催予定を周知したところ傍聴希望があり、本日9名の方に傍聴いただいている。

小林修三会長

報告(1)「慢性腎臓病(CKD)の現状について」を事務局から説明をお願いします。

報告(1)「慢性腎臓病(CKD)の現状について」  
資料1に沿って事務局から説明。

小林修三会長

このことについて、御質問等はあるか。

田村委員

資料1の(4)神奈川県の新規透析導入患者数について、神奈川県では全体的に横ばいから減少傾向にあり、糖尿病性腎症も減少しているが、減少の割合はどちらも同じくらいか。糖尿病性腎症以外の原疾患の患者数も今後示した方がいいかと思うが、見たところ減少はしていないということによいか。11月12日付けの神奈川新聞で掲載されていたが、神奈川県における糖尿病性腎症による新規透析導入患者数の減少割合の幅が全国に比べて大きいということだが、糖尿病性腎症以外の原疾患の患者数があまり減少していないとなると今後、神奈川県として腎疾患全体に対する対策を強化するべきと考えられるが、その点について県としていかがか。

事務局

神奈川新聞で示されているデータは持っていないが、当課で把握している日本透析医学会が公表している神奈川県のデータでは2016年から2021年で新規透析導入患者数は約4%減少、糖尿病性腎症による患者は約15%減少、一方で糖尿病性腎症以外の原疾患の患者数は約4%増加している。県として腎硬化症による患者数は把握できていないが、全国的にも腎硬化症の割合が増加傾向にあることからそちらの対策も必要と考えている。

田村委員

特定健診や企業健診から早期に拾い上げるということは、糖尿病の合併の有無を問わず、慢性腎臓病全般で重要だと実感した。

小林修三会長

高血圧に基づく腎障害については、まだまだなのかなと思うところはある。そもそも腎硬化症の診断自体何なのかという中で患者を拾い

上げるには、血圧管理をしっかりしていかなければならないということとは絶対的に言えると思う。

他にないようであれば、次に進ませていただく。

報告（２）「令和４年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の実績について」と（３）「令和５年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の取組みについて」を事務局から説明をお願いする。

報告（２）「令和４年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の実績について」

報告（３）「令和５年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の取組みについて」

資料２及び３に沿って事務局から説明。

小林修三会長

このことについて、御質問等はあるか。

田村委員

糖尿病は世界糖尿病デーに合わせた普及啓発を行っているが、慢性腎臓病に関しても毎年３月第２木曜日の世界腎臓デーに合わせて県庁周辺等で啓発を行いたいと考えているが、いかがか。

事務局

予算的な部分もあるので可能な範囲で検討させていただく。

小林修三会長

湘南鎌倉総合病院でも世界腎臓デーに合わせた講演会を行っているが、やはり腎臓と言えば、世界腎臓デーは頭に入れておいていただきたいと思う。

小林一雄副会長

神奈川県内科医学会のかかりつけ開業医の窓口になりたいと考えているため、腎臓に関する研修会等について、県よりご連絡いただければ参加者増加のために協力させていただく。

また、内科医学会でも市民公開講座を考えているので可能であれば神奈川県腎友会と協力して実施できればと思っている。

小林修三会長

普及啓発については、医師等に対してだけでなく患者視点での話を大事にしたいと思っている。

また、管理栄養士、保健師、看護師等も積極的に参加してもらった活動を展開することはＣＫＤ患者数減少に大きく影響すると思うので、

ぜひとも関係者にはそのあたりもお願いしたいと思う。

他にないようであれば、次に進ませていただく。

報告（４）「神奈川県慢性腎臓病（ＣＫＤ）診療連携構築協議会の開催状況について」と（５）「第８次保健医療計画及び健康プラン 21（第３次）の慢性腎臓病（ＣＫＤ）の記載について」を事務局から説明をお願いします。

報告（４）「神奈川県慢性腎臓病（ＣＫＤ）診療連携構築協議会の開催状況について」

報告（５）「第８次保健医療計画及び健康プラン 21（第３次）の慢性腎臓病（ＣＫＤ）の記載について」

資料４及び５に沿って事務局から説明。

小林修三会長

このことについて、御質問等はあるか。

田村委員

慢性腎臓病は心不全、糖尿病と並んで、心腎代謝連関として健康寿命延伸にとって克服を求められる中で、国の指針がある５疾病６事業に含まれているわけではないため自治体も取組に苦勞しているにも関わらず、今回こうして糖尿病のコラムとして追記するという事は非常に素晴らしいと思う。

小林一雄副会長

内科開業医の団体である内科医学会の中で腎疾患対策委員会が設立されているのは、おそらく神奈川県だけだと思うので、ぜひ神奈川県独自の活動としてそこも強調していただければと思う。

鈴木委員

心不全、糖尿病のような注目されやすい分野においては療養指導士を目指そうとする看護師は多くいる。看護協会でも各疾患に特化した専門的な研修はあるが、腎臓単体となるとそこまで関心をもたれないというのが現状としてあり、地域のクリニックや訪問看護ステーション等の方がよりニーズがあるように思う。

また、研修会等については、看護協会に連絡をいただければ興味のある方に周知させていただく。

藤井委員

栄養士会でも腎専門の栄養士を養成しているところだが、中々数が少ないという現状がある。

さらに、腎専門の栄養士をうまく活用できていないため市民向けの

講座や有資格者の把握等が今後必要と考えている。

小林修三会長

今、お話いただいたとおり、県内のどこにどれだけの腎専門の栄養士がいるのかが分かるといいと思うので、次回までに資料としてお示しただけのよう無理のない範囲でお願いしたい。

雁瀬委員

腎臓専門医リストの公開を検討していることについて、腎臓サポート協会において道の駅等で市民の健康相談を実施した時に尿検査を全くしていない方が多く見受けられたので、そういった時にすぐに専門医への紹介ができるようにリストを早めに公開していただけるようお願いする。

また、医療従事者向け研修会について、令和4年度の参加者数が少なく、非常にもったいないと感じたので、アーカイブをホームページに掲載する等もっと多くの方が好きなタイミングで視聴できるようにするとよいのではないかと思う。

小林修三会長

啓発活動は色々と知恵を使わないといけないという部分で皆様のご意見を今後もいただければと思う。

田村委員

雁瀬委員からご指摘があったが、腎臓専門医リストについては、現在、本協議会を管轄する神奈川県がん・疾病対策課の事務局から該当の医療機関向けにアンケートが来ていて公表に向けて進めていただいているところである。

なお、腎臓病療養指導士に関しては、日本腎臓学会としても厚生労働省に糖尿病療養指導士のように保険点数化に向けて交渉中である。

また、47都道府県のうち8つには腎臓病療養指導士の組織が立ち上がっているが、この点は聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科の櫻田先生より同様の働きかけがあるので、神奈川県においても組織化に向けて調整中となっている。

医療従事者向け研修会について、参加者が少ないことがもったいないという意見があったが、湘南鎌倉総合病院では専門医師の講演会をアーカイブ化しているので、行政は必要に応じて参考にするのがよいのではと思う。

事務局

医療従事者向け研修会について、周知に御協力いただけるという意見もあったので、開催にあたっては委員の皆様を通じて御協力していただければ参加者が増加するのではないかと考えている。アーカイブ

化については、今後検討していきたい。

ここからは議題に移る。議題（１）「今後の慢性腎臓病（CKD）対策について」を事務局から説明をお願いします。

議題（１）今後の慢性腎臓病（CKD）対策について  
資料６に沿って事務局から説明。

小林修三会長

このことについて、御質問等はあるか。

今後、検討が必要な事項に尿検査について、記載されていないことがどうかなと思う。CKD患者を発見しても適切に療養指導までまわっていないことや最近のSNSを用いて発信していくなどがポイントになってくると思う。

田村委員

医療従事者向けと県民向けで働きかけが異なると思うが、県民向けで言えば、以前、日本腎臓病協会と協和発酵キリンが結んでいるダイヤモンドプロジェクトにおいて慢性腎臓病の認知度について、調査が行われたが、蛋白尿との結びつきを認知しているのは50%程度である一方で、GFRによって慢性腎臓病が分かることを認知しているのは12%程度と意外に知られていないことを実感した記憶がある。

また、県個別のKPIを原疾患別の新規透析導入患者数で設定できればいいと思う。

小林修三会長

新規透析導入患者数が一番、取りやすく分かりやすいのでゴールとして設定することは大変よいと思う。

腎臓専門医数が足りないということも透析患者数が減少しない1つの理由としてあるかもしれないが、県民一人ひとりが生活習慣を改善していくことが重要かと思う。

小林一雄副会長

本協議会と内科医学会が連携して進められればという案が2つある。1つ目が減塩フェスティバルというイベントが京都で開催されたことがあるが、同様のイベントを行政や関係団体と協力して、開催できればと思う。

2つ目に薬剤師との連携において、CKDシールを考えている。GFRを確認せず薬を処方しているという現状がある中で薬剤師会と連携してそういった事態を無くしていければと考えている。

内科医学会では独力で進めることができないので、ぜひお声がけい

	<p>ただければと思う。</p> <p>阿部委員 薬局においてGFRを確認せず薬を処方しているという話を聞いて驚いたが、整形外科で薬を処方される高齢者の場合には、GFR等を確認して疑義照会をしていることもある。そのため、小林一雄副会長が説明していたCKDシールについて、素晴らしいと思い、今後医師会と薬剤師会が協力して広めていければと感じた。</p> <p>小林修三会長 熱心に取り組まれている方とそうでない方がいる中で、全体の底上げとして小林一雄副会長の案を有効に活用していただければと思う。</p> <p>他に御意見がないようであれば令和5年度神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会を終了させていただく。</p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料1 慢性腎臓病（CKD）の現状 資料2 令和4年度慢性腎臓病（CKD）対策の県の実績について 資料3 令和5年度慢性腎臓病（CKD）対策の県の取組みについて 資料4 神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携構築協議会の開催状況について 資料5 第8次保健医療計画及び神奈川健康プラン21（第3次）の慢性腎臓病（CKD）の記載について 資料6 今後の慢性腎臓病（CKD）対策について 参考資料1 神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会設置要綱 参考資料2 神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会傍聴要領 参考資料3 慢性腎臓病（CKD）について 参考資料4 かかりつけ医の皆様へ（かかりつけ医向けリーフレット） 参考資料5 特定健康診査におけるeGFRの実施状況調査 集計結果 参考資料6 神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携体制構築協議会設置要綱 参考資料7 神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携体制構築協議会委員名簿 参考資料8 腎疾患対策検討会報告書（平成30年7月）に係る取組の中間評価と今後の取組について</p>